

後継者クラブの活性化支援

■ 西讃農業者クラブ ■

(西讃農業改良普及センター 伊藤 博紀)

●対象の概要

西讃農業者クラブは、観音寺市、三豊市の30～40歳代が中心の青年農業者18名(男性17名、女性1名)で組織されている。

就農後5年未満の農業者も多く(10名)、その経営品目は、施設野菜、露地野菜、花き、果樹及び採種と多岐にわたっている。

このため、主な活動は、先進農家との交流会、栽培管理や土づくりに関する技術及び農業法人等への視察研修会等で、新規就農者の仲間づくりとクラブ員の農業経営の安定・発展を目指した活動に力を入れている。

表-1 部門別クラブ員数 (人)

施設野菜	露地野菜	花き	果樹	採種
2	11	1	3	1

●課題を取り上げた理由

西讃農業者クラブは、昭和51年に設立された歴史あるクラブで、地域の中核的経営や組織活動のリーダーの育成を担ってきた。しかし、時代の流れとともにクラブ員は減少、活動内容も画一的、定例的となり、数年前からは活動も休眠状態に陥っていた。

一方、近年のU I Jによる新規就農者の増加とともに、彼等から寄せられた「非農家出身で相談相手がない」、「同世代の農業者と交流したい」といった声がかきかけとなり、平成28年10月、12名のクラブ員が「西讃農業者クラブ」を再スタートさせた。

活動の停滞を繰り返さないためには、クラブ員の自主性を高め、活動を活性化させ、そのうえで、新規就農者をはじめとする農業後継者間の連携や相互研さんを促進するためのクラブ育成が重要である。

地区内の若い農業者との交流や自己研さんの

取組みは始まったばかりであり、重点的な支援が求められていた。

●普及活動の経過

1 クラブ活動の目標設定

活動目標を設定し、その達成に向けて取り組むことがクラブ員の自主性を高めると考え、定例会で活動目標に関する指導・助言を行った。

その結果、以下の3つの目標を設定した。

- ①相互研鑽を目的としたほ場研修会の開催
- ②プロジェクト活動へのチャレンジ
- ③新規クラブ員の増加

2 ほ場研修会の取組支援

「西讃農業者クラブ」の再スタートにあたって、クラブ員の経営を知るためのほ場研修会が企画され、年間計画の作成支援、活動の日程調整を行い、共に活動を行った。

特に「経営を知る」だけではなく、「ともに考え、ともに学び、刺激し合える」研修会となるような運営に努めた。

3 プロジェクト活動の取組支援

再スタート後、プロジェクト活動への取組は初めてであったことから、その目的と方法についてクラブ員へ周知し、この活動が受動的にならないようクラブ員一人一人から課題を提出してもらった。

提出された課題の中から、クラブの共同プロジェクトとして「水田裏作の排水対策技術」が選定され、実施にあたっては、計画書や発表資料の作成、調査方法等に関する指導・助言を行った。

4 新規クラブ員確保の取組

新規クラブ員加入促進のチラシをクラブ員共に作成した。

クラブ員が候補者の家に向いての直接勧誘、新規就農者の集まる会合でのチラシを配布を行ったほか、普及センターからも、日頃から接する新規就農者や就農希望者へ「西讃農業者クラブ」の活動を紹介し、加入促進を図った。

西讃農業者クラブに加入しませんか

西讃農業者クラブは、戦後47年、正統の県民共済会が2007年(第17期)に、農業技術の普及のために活動をはじめた。その活動の中心は、農業技術の普及と農業者の福祉である。その活動の中心は、農業技術の普及と農業者の福祉である。その活動の中心は、農業技術の普及と農業者の福祉である。

【西讃農業者クラブ】
 〒761-0001 高松市東区東三丁目1番1号
 電話 087-822-1111
 FAX 087-822-1112
 Eメール 西讃農業者クラブ事務局
 西讃農業者クラブ事務局

西讃農業者クラブ加入促進チラシ

●普及活動の成果

1 自主的なクラブ運営への発展

目標達成のため、クラブ員の役割分担を明確にし、定例会において目標の進捗状況を確認するようにしたことで、それぞれのクラブ員が責任を持って活動することができ、クラブ員同士の意見交換も活発に行われた。

また、新たな活動として、クラブ員からの発案で「クラブ員間のほ場研修会」が実施でき、技術交流の機会となった。

2 研修会の積極的な開催

クラブ員自らが研修会や県内外先進地視察を企画し、先端技術や先進農家、先進地の優良事例等の情報収集を積極的に取組むようになった。

また、ほ場研修会は、全員のほ場を訪問するため、ほぼ毎月開催され、お互いの農業経営を理解するとともに、相互研鑽への意欲を高めることができた。

表-2 平成30年度研修会の開催実績

月日	研修名	月日	研修名
5/ 5	イチゴほ場研修	9/14	ブドウほ場研修
5/22	土づくり勉強会	10/23	県内視察研修
6/12	鮮度保持勉強会	11/27	アロココーほ場研修 県外視察研修
6/20	ミトマトほ場研修	12/11	キャベツほ場研修
7/25	青ネギほ場研修	1/25	ミトマトほ場研修
8/27	排水対策実演会	2/15	トマトほ場研修
8/21	GAP勉強会	3/ 7	アスパラガスほ場研修

3 実践的な農業技術の習得と高まる連帯感
 プロジェクト活動を通じて、農業技術の習得や課題解決の手法、さらに「考える力」が培われた。

特に、プロジェクト活動では、農業機械メーカーと連携した第1回実演会、クラブ員自らが所有の機械を利用して行った第2回実演会の開催及び実証ほの設置、各種調査や発表資料の作成等に、クラブ員の力を結集して精力的に活動した。その結果、クラブ員同士の仲間意識が向上し、切磋琢磨するようになった。

4 クラブ員数の増加

加入促進を図った結果、本年度は5名の加入者があつた。

加入者からは、「多彩な経営を行っているクラブ員と交流することで、自身の経営の刺激になっている」という意見が得られ、当クラブの意義が評価されている。



共同プロジェクトでの収穫調査

●今後の普及活動の課題

1 自主的な運営の継続

来年度からは、活動の円滑な運営と充実を図るため「勉強会」、「ほ場研修会」、「交流会」の3つの部会に分けて担当者を配置するよう計画している。

今後も定例会で取組状況を把握し、クラブ員と共に点検、評価を行いながら自主性をさらに引き出させるような支援を行う。

2 プロジェクト活動の継続

プロジェクト活動を継続させるためには、クラブ員が参加しやすい環境づくり（年間計画作成等）や後継者の経営改善につながる課題設定が必要である。

3 外部に向けた活動の検討

次世代の農業後継者を確保するため、クラブ活動のPRや地域の活性化につながるような活動（消費者との交流会、地域づくり活動等）を検討する。